

膠旅

二〇二二年五月二〇日(月)

六月二〇日(日)

都合により、会期等が変更になる場合があります。

武蔵野美術大学美術館 展示室 四・五 入館無料

牛の原皮(げんぴ)の脱毛工程(兵庫県姫路市・大崎商店 撮影・内田亜里)

表現をつなぐ
文化の源流



MWU M&L

日曜休館(六月二三日(日)・二四日(日)は特別開館日)

一〇時—一八時(土曜 特別開館日は一七時閉館)

主催:武蔵野美術大学 美術館・図書館 監修:内田あぐり

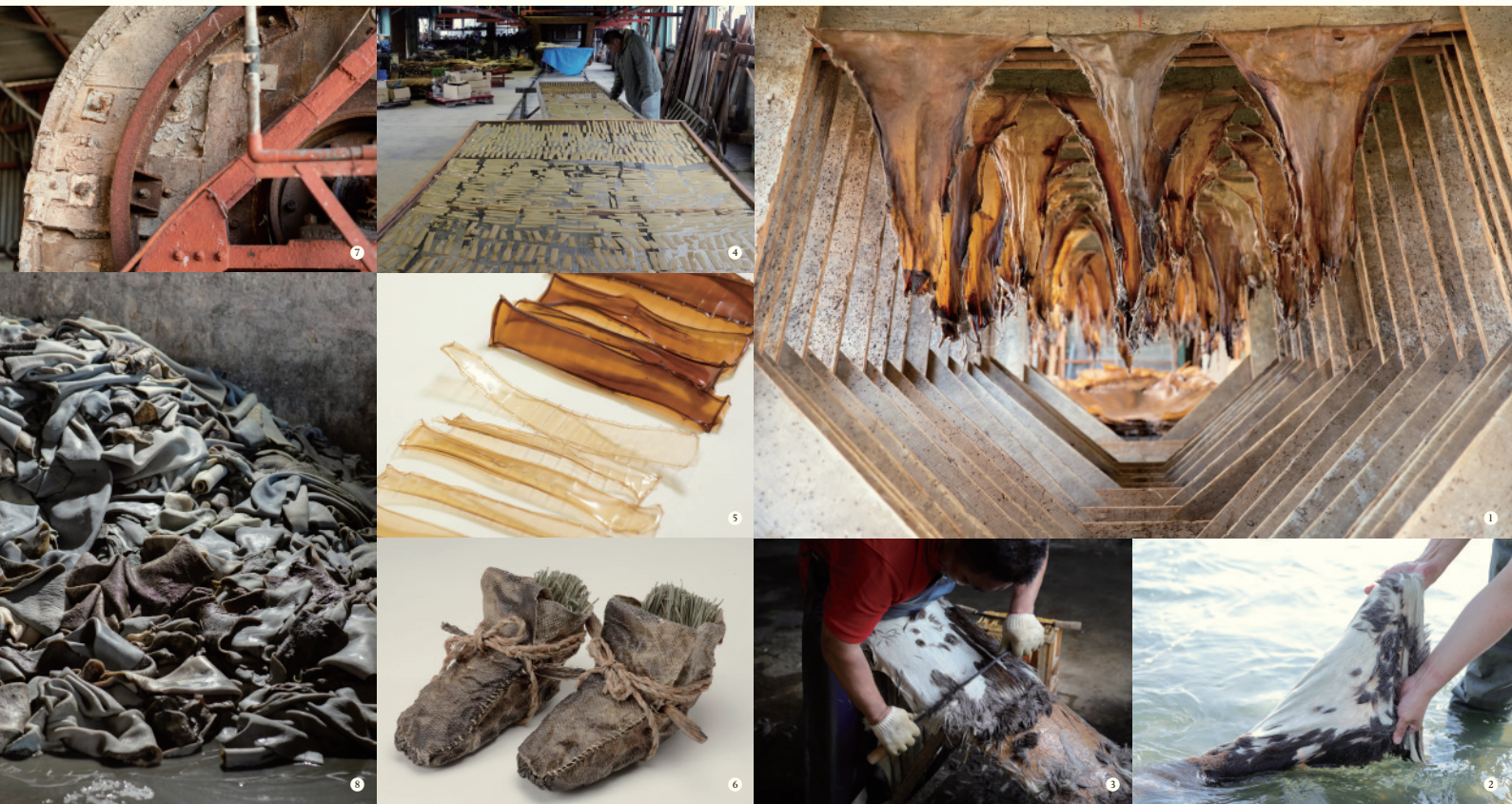
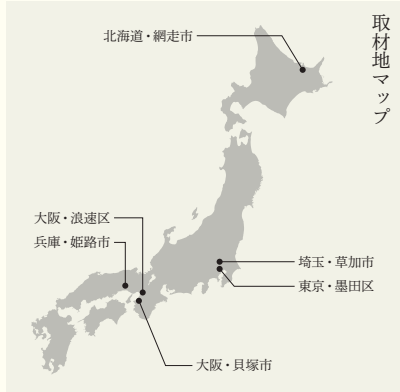
膠を旅する 表現をつなぐ文化の源流

日本画の伝統的画材である膠^{にかわ}。絵具と支持体をつなぎとめるその素材は、多様な表現を生み出しながら、連綿と続く日本画の系譜を支えてきました。しかしながら、今日において日本古来の伝統的な製造技法による膠の生産は途絶えています。

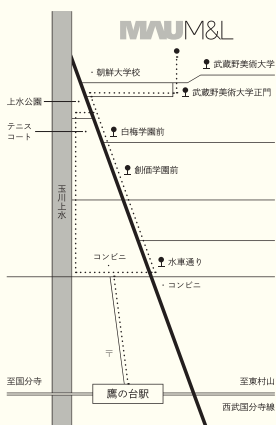
本学共同研究「日本画の伝統素材『膠』に関する調査研究」では、膠づくりの歴史的、社会的背景を見つめ直すため、現地調査の旅を重ねてきました。動物の皮や骨、魚の鱗などから溶かし出された動物性タンパク質を原料とする膠には、とりわけ皮革素材を製造する際に余る屑皮や残滓が多く利用されています。膠づくりの道筋をたどるとき、そこには皮革産業を中心とした各地の動物資源利用のあり方、さらには動物の生命を糧とする狩猟の風習といった、ひとつの文化の源流が見えてきます。

旅の結びとなる本展では、館蔵の日本画作品を交えながら、現地調査のドキュメントや動物の皮といった実物資料をご紹介します。膠素材に潜む獣性や、表現を生み出す原質としての動物の本姿へとあらためて視線を向けることで、膠をめぐる文化の諸相をご覧ください。

取材地マップ



- ① 鹿の生皮（きがわ）の板張り工程。脱毛処理した動物の皮を乾燥させ、膠の原料となるニベを作る。
 - ② 鹿の原皮（げんぴ）の川漬け工程。数週間、原皮を川の水に浸す。毛根部に発生するバクテリアの酵素が脱毛をうながす。
 - ③ 原皮の脱毛工程。不要な毛を削ぎ落としていく。
 - ④ 成形した膠の乾燥工程。脱毛し乾燥が済んだ皮を、再び水で戻し、裁断、煮沸することで膠液を抽出する。膠液を自然冷却でゼリー状に固めて切り分け、金網台に並べて乾燥させる。
 - ⑤ 鹿膠（じ）と牛膠（ぎ）の完成品
（①～⑤ 兵庫県姫路市・大崎商店）
 - ⑥ 鮭皮靴（チヌペリ）
北海道の先住民族は、魚皮を使用した衣料や膠を利用する生活文化を根づかせていた。（公益財団法人アイヌ民族文化財団蔵）
 - ⑦ 皮の加工処理に使用する木製のドラム型回転機「タイコ」
 - ⑧ 膠・ゼラチンの原料となるアルカリ処理をした牛皮
（⑦、⑧ 埼玉県草加市・河合産業）
- 撮影・内田亜里（④、⑥を除く）
同時開催展覧会：
オムニスカルプチャーズ——彫刻となる場所
二〇二二年四月五日「月」——六月二〇日「日」
片山利弘——領域を越える造形の世界
二〇二二年四月五日「月」——六月二〇日「日」
- Musashino Art University Museum & Library
〒一八七-八五〇五 東京都小平市小川町 一七三六
電話：〇四二-三三二-一六〇〇
web: <https://mauml.musubi.ac.jp> twitter: @mau_m_j
- 交通アクセス：
・西武国分寺線「鷹の台」駅下車、徒歩一八分
・JR中央線「国分寺」駅北口（四番乗り場）より西武バス「武蔵野美術大学」行き、または「小平営業所」行きに乗り、「武蔵野美術大学正門」下車（バス所要時間約二五分）
・JR中央線「立川」駅北口（五番乗り場）より立川バス「武蔵野美術大学」行きに乗り、
「武蔵野美術大学」下車（バス所要時間約二五分）
＊お車でのご来館はご遠慮ください。



丸木位里・丸木俊《原爆の図 高張提灯》武蔵野美術大学 美術館・図書館 所蔵



本橋成一『屠場』（平凡社、2011年）より、個人蔵



麻田鷹司《牛舎》武蔵野美術大学 美術館・図書館 所蔵